

第一回県央地区「地域の充実・産業活性化懇談会」 ～産学公連携の推進の現状と課題～

巡回型4地域委員会始動

10月29日(金)ホテルセンチュリー相模大野にて、新しい事業方針である巡回型4地域委員会(横浜・川崎に偏りがちになる活動を県内に広げるために、4つの地域単位に巡回型地域別委員会を設置)の第一回目が行われた。

第一回県央地区「地域の充実・産業活性化懇談会」が開催された。今回テーマの産学公連携に基づき、地域の産業界のトップの方々をはじめ、地域の大学、県・相模原市を初めとする自治体など3者からバランスよく、予想を超える120名の方からご参加戴いた。

冒頭、当協会前田会長より「産学公連携は相互に踏み込んだ交流が重要であり、本日はそのための第一歩である。新技術・新産業に結びつけるのはたやすいものではない。明日の地域経済のために積極的な発言で壁を取り払い、相互に理解を深めるよう期待する。」との開会挨拶があった。

懇談会は7人のコメンテーターの方々より、産学公連携の現状と課題について特徴ある取組みを割り当て時間を超えるほど熱っぽくお話を頂き、その後討議を行った。



会長とコメンテーターの方々

コメンテーターの以下の7名によりプレゼンテーションが行われた。

【相模原市長 小川 勇夫氏】

- ・地域の特性
優れた技術を有する中小企業ならびに大学、支援機関の活発な活動という特徴がある。
- ・首都圏南西地域産業活性化フォーラム
相模原市は中小企業の支援として産学連携を推進し、広域的な産学公の交流、出会いの場にフォーラムを年3回実施していく。
- ・(株)さがみはら産業創造センター(SIC)による産学連携支援事業

女子美術大学や職業能力開発総合大学校との連携、シーズ・ニーズの発掘とマッチング事業を推進をしている。

- ・産学連携を見据えた地域の大学との協定
相模原市と青山学院大学との協定。
SICによる女子美術大学、職業能力開発総合大学校、神奈川工科大学との協定。
- ・今後の課題
中小企業を重点に、産学連携の契機提供と成功事例の創出を目指す。

【神奈川県産業技術総合研究所

所長 馬来 義弘氏】

- ・ものづくり技術支援強化3年・3倍増活動
技術相談件数、依頼相談件数、受託研究収入においてH13年度を基準に3年間で3倍増にする。サービスの大幅な向上を図る。
- ・コーディネーター機能の強化
企業ニーズ(潜在ニーズ)把握能力、具現化能力の向上

【アツギ(株)

代表取締役副社長 佐々木 秀雄氏】

- ・ストックングを例に光触媒に至るまで3回に渡る不断の技術開発努力の結果、途上国輸入品に打ち勝ってきた。
- ・今後は厳しい国際競争の中、成熟産業としても技術開発が必須の条件になってきており、産学間の情報共有をベースに新しい仕組みと取組みが必要と考える。

【青山学院大学

理工学部長 稲積 宏誠氏】

- ・シーズ、ニーズのマッチングは重要であり、信頼関係の構築は欠かせない。
- ・教授は自分の城に閉じこもりがちである。リエゾンオフィス等の組織作りは学内のモチベーション向上の意味でも重要である。

【神奈川工科大学 学長 杉山 秋雄氏】

- ・産学公連携の3成功要因(キークセスファクター)
 1. 主役は企業
 2. 大学・企業それぞれが相手領域に踏み込んで技術課題を共有
 3. 相互信頼関係の確立
- ・多様な連携チャンネル別の開発事例
 1. 人脈を通して
 2. 大学主催の交流会や報道を通して
 3. 大学への駆け込み事例
 4. 大学からの働きかけの事例

【神奈川県

工業技術担当課長 馬飼野 信一氏】

- ・技術立県を目指して
神奈川県内の学術研究開発機能は全国でトップレベルである。ポテンシャルティーの

高さを生かすためにも県全体の産学公連携技術支援システムならびに技術、経営評価システムを構築することが課題である。

【よこはまティーエルオー（株）

取締役 山口 惇氏】

- ・神奈川県内の知的創造サイクルの形成
- ・大学発ベンチャー支援
- ・新規事業の創出

討議 コメントーターの発表後、（株）オハラ油谷社長より、「日本と産学公連携の成功事例が多い海外とりわけ米国の取組みの差はどこにあるか？」との質問があった。

コメントーターの方から、「日本の場合は大学では教員が自分のテーマを設定し研究する学問になりがちだが、米の場合は企業のニーズが先行するため、最初から企業との連携をはかり、企業のニーズに対する研究が行われている。また教員の処遇についても年間のサラリーが決まっているわけではなく、研究費も企業からの支援で行っている。」などの討議がなされた。

また、システム技研（株）の安藤社長からコーディネーター役は横の連携をとって全国的に展開して欲しいとの要望に、産総研の馬来所長より、最大限努力するとの回答を頂いた。

統括コメント 討議後、服部副会長から「産・学・公のジャンケンゲームでは誰も勝てないのが

現状であり、枠組みが出来ていないことの認識が共有できた。経営者協会は今後も技術マネジメント懇談会等でこのテーマを議論し仕組みを構築したい」との言葉で締め括られた。



交流パーティー 引き続き別の会場にて交流パーティーが行われ約65名の参加者の中、山口副会長より「経営者協会は唯一の県全体を網羅した団体であり、幅広い会員の皆様のために魅力ある経営者協会に更に進化しなくてはならない。産学公連携は人を知ることがポイントなのでこの機会を利用して頂きたい。」との開会挨拶があり、続いて相模原市小川市長より乾杯のご発声を頂いた。

2時間近くにわたり、数多くの新しいつながりや交流が生まれた。

最後に（株）オハラ油谷社長より、「企業にとって技術開発は必須条件であり、今後、技術マネジメント懇談会につなげて行きたい」との挨拶で閉会した。